



福井県PTA

◆発行者:福井県PTA連合会 会長 田本憲恭 広報委員会
 ◆発行所:〒918-8135 福井市下六条町14-1(福井県生活学習館2階)TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
 ◆ホームページ:http://www.fukui-pta.jp (社)日本PTA全国協議会 http://www.nippon-pta.or.jp/
 ◆E-mail:mail@fukui-pta.jp

第62回日本PTA全国研究大会 長崎大会



育もう、子どもと共に「感謝」と「勇気」



福井県PTA連合会
会長 田本 憲恭

PTA会員の皆様には、日頃より福井県PTA連合会(以下県P)の方針や活動にご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。平成26年度年次総会において、ご承認賜りました新役員と共に、育もう、子どもと共に「感謝」と「勇気」(チエンジ・チャレンジ・コミュニケーション)のPTAの県Pスローガンのもと、前向き元気に取り組んでいます。折角の機会ですので皆様に今一度、県P基本方針をお知らせしたいと思います。

○子どもたち、保護者同士、教師とのコミュニケーションを深め、子どもたちの幸のため活力あるPTA活動の促進に努める。

○心身共に豊かな児童生徒を育成するために、早寝・早起き・朝ご飯とそれにもなうあいさつ運動の促進に努め、二層の基本的な生活習慣の確立を目指す。

○いじめ、不登校、虐待、不審者問題等の対策を講じると共に命の尊さを知らせ、子どもたちの安全・安心確保と環境の改善に努める。

○地域の共有財産である学校と地域社会が連携した力強いPTA活動を促進するため、全県的事業の支援や、情報資料の共有化と提供に努める。

○関係機関と連携し、東日本大震災の復興支援を継続する。

○県PTA連合会の運営に携わる者は、県P諸活動の意義を理解し、県内PTAの交流と研修の場であることを理解し、気概を集結して運営にあたる。

この基本方針は、PTA会員の皆様が県内各地にて行って頂いている活動の、家庭・学校、地域のより強い架け橋となり、活動の支援となるよう考え、県Pならではの活動を行う方針です。

現在は12月6日に開催される県P研究大会に向け、沢山の会員の皆様にご参加を頂けるよう魅力あふれる大会にすべく打ち合わせを行っているところです。児童、生徒の自立に悪影響を与える様々な問題や、各単位PTAが抱える同一の問題点をいろんな角度で検証し、語り合える大会を目指しています。

来年2月には第2回ネットモラルキャラバンにて、全国初、ネットモラルに関する、人を育てる講習会を開催致します。

県Pの活動は各都市PTA連合会と連携し、皆様の活動のご支援となるよう尽力致します。今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

お知らせ

福井県PTA連合会のメールアドレスが新しくなりました。
新アドレス mail@fukui-pta.jp

『家庭教育相談・応援サイト』を開設

県教育研究所はスマートフォンやタブレット端末でもアクセス可能な「家庭教育相談・応援サイト」を開設し、0～18歳の子育てに関する保護者の悩みや進学等の相談に対してアドバイスや情報を提供しています。気軽にアクセスしてみてください。

「家庭教育相談・応援サイト」
 facebook交流広場のURLはこちら↓

『<https://www.facebook.com/kateisoudan>』

CONTENTS

◆会長あいさつ	1	◆国際交流・国内研修INつくば 広報紙づくり講習会	6
◆福井県幼・小・中PTA活動『地区別研修会』実施報告	2～3	◆ドクター通信 県P連安全会	7
◆第62回日本PTA全国研究大会長崎大会 参加レポート	4～5	◆ブロックより、こんなことやってます	8

6月14日 (土)

坂井地区

坂井ブロック長 圓道 忠雄
あわら市金津中学校「いちひめホール」

平成26年6月14日(土)あわら市金津中学校いちひめホールにて、あわら市教育長 寺井靖高様に来賓祝辞を頂き、坂井地区の各幼稚園・小・中学校から約100名の参加者が集まり、講演会、実践発表会、意見交換と意義のある研修会を開催しました。

講演に「子育て塾「育み」のモンセンス・ペアレンティング プログラム・マネージャーの森合道行氏を講師に招き「わかりやすい子育て」をテーマに「ペアレンティング」と題して子どもに対するしつけ方(教育)をご講演いただきました。

モンセンス・ペアレンティングとはアメリカで開発された「虐待待児の保護者支援」のプログラムで、暴言や暴力を使わずに子どもを育てる技術で、虐待の予防や回復をめざしたものです。親自身の言動によって気づかないうちに、子どもに問題行動を引き起こして、怒鳴って育てれば子どもは脅しを覚え、厳しく育てれば言い訳を覚えて育つ。子育てのゴールは自立であり、挨拶、お礼を言う・指示に従う等の社会スキルを身につけさせる事。しつけは何度も何度も練習しなければ身につかないが、一度身につければ子どもにとって一生の宝になる。積み上げて固めたスキルは強固な人間関係を築き上げるなど、ご自身のお子さんに對する教育を例にとり、しつけに對する言動の重要性を説かれた大変貴重な講演でした。



実践発表会では明章小学校PTAが「人とのつながり地域とのつながりを大切に」をテーマに、地元の祭りに参加するなど積極的な活動内容、通学路の安全確保に果たす地域の取り組みの現状と課題について発表されました。

金津中学校PTAは「家庭と学校が連携を深めるPTA活動」をテーマに保護者と教師が「対話」を大切にしながら、協力し合える開かれた学校、PTA活動を目指す努力をされている中で、生徒数が減少する中でPTA行事への関心低下の問題への取り組みを発表されました。意見交換の場において多くの質問や各学校での課題への取り組み方への意見もあり、坂井市のPTA活動の熱を感じました。今後も坂井地区PTA会員の皆様の情熱の磁石によって、子どもたちがよりよい学校生活がおくれると確信した研修会でした。



6月21日 (土)

福井・永平寺地区

福井・永平寺ブロック長 水島 秀晃
県生活学習館 多目的ホール

福井・永平寺地区の研修会は、来賓に永平寺町教育長 宮崎義幸氏をお迎えし開催しました。

講演は福井愛育病院副院長の鈴木秀文氏を講師に迎え「親も子も知っておこう 性の知識」と題しご講演いただきました。

「今の若者、とくに男子が草食系ばかり、もって積極的になってほしい。」と、これまでと違った視点から切り込んだ分かりやすく楽しい講演でした。

実践発表は3校。福井エンゼル幼稚園父母の会は、様々な行事を通して先生と保護者が楽しく活動している様子を発表。長橋幼・小学校PTAは、小規模校ならではの取り組みを通して地域・学校・保護者が一体となり生き生きと活動されている様子を発表。最後に美山中学校PTAは、自ら積極的に地域に関わっていくことであることへの愛着を育てていることを発表してくれました。

今、少子化にともないPTA活動を見直している学校もたくさんあると思いますが、すべてに特効薬はなく、ひとつひとつ地道な活動を続けていく先に未来があることを改めて感じる研修会でした。



6月28日 (土)

嶺南地区

嶺南ブロック長 高畑 徹
敦賀市きらめきみなと館

ネット社会の中での子どもの守り方

平成26年度嶺南ブロックの地区別研修会は、平成26年6月28日(土)に敦賀市のきらめきみなと館小ホールにて、嶺南各地より会員約200名の参加で開催されました。

e-ネットキヤラバン講師 後藤亜希子氏の講演では、著作権や肖像権侵害等本人に法を犯している自覚のない行為、ネットへの書き込みによるいじめ、金銭トラブル、健康被害と、事例動画をまじえ、とてもわかりやすくお話ししていただきました。

実践発表では、松原小学校父母会による保護者、学校、地域が一体となって行事参加することで児童を育てる様子が紹介されました。松陵中学校PTAからは、保護者の体育大会への参加は多いものの、PTAの役員等を引き受けてくれる人が少ないといった悩みを問題提起されました。活発な質疑応答もあり予定時間を超過した有意義な時間が過ぎました。

今回の内容の中には県Pの課題として取り組むべきものもあり今後検討していきたいと思えます。



平成26年度福井県幼・小・中 PTA活動地区別研修会 実施報告

6月22日 (日)

奥越地区

奥越ブロック長 白崎 貴之
学びの里「めいりん」

地区別PTA研修会を振り返って

奥越ブロックの地区別研修会は、120名余りのご参加をいただき、開催しました。



講演会の講師には、福井心のクリニック/福井市保育カウンセラー 臨床心理士の齊藤 二氏をお迎えし、「子どもの心を育て、心をつなぐために、大人ができること」をテーマに、齊藤先生のこれまでの実体験を通じてきた大変貴重なお話をお聞かせいただきました。



今年の実践発表は、勝山市立平泉寺小学校PTA(テーマ…小学校の行事報告とPTAや地区との関わり)と大野市尚徳中学校PTA(テーマ…地域と共に育てよう心豊かな子どもたち)地域との連携、参加活動を通じて「～」を行いました。両校ともに、地域の方々との連携をとりつつ、PTAとしての活動を行っており、地域全体で子ども達の健やかな成長を見守っていることがうかがえました。

6月29日 (日)

丹南地区

丹南ブロック長 橘 英亜機
鯖江市文化センター

「社会情勢の変化に対応」イクメン・少子化・奉仕を学ぶ

6月29日(日)鯖江市文化センターにて、丹南地区の地区別研修会が地区内から約200名のPTA会員が集い開催されました。

開会行事に続き「平成時代の父性を考える」と題して、NPO法人きらさらくらぶ副理事長で、保育士でもある林昇平氏から講演をいただきました。お話のなかの「自分の夢は日本中の父親を笑顔にすること」という言葉が大変力強く感じられました。

実践発表と意見交換にうつり、まず鯖江市河和田小学校PTAの「すべての地域住民と子どもたちの絆をつなぐ活動」少子化・高齢化・人口減少を前向きに」と題した発表が行われました。

続いて越前市武生第三中学校PTAの「ボランティア活動教育の継続と更なるやりがいを実感できる活動への展開」と題した発表が行われました。

各発表は入念に準備された内容で、スライドを駆使して大変わかりやすく活動の様子がまとめられていました。質疑応答では各校の発表に2名の質問があり、発表者は熱い思いを込めて受け答えをしていました。



全体会

福井県PTA連合会 副会長 佐々木 敦子

8月22、23日第62回日本PTA全国研究大会長崎大会に参加させていただきました。初日は、全国61PTA協議会会員930名が、家庭教育、学校教育、地域連携、人権教育等10分科会に分かれ様々な形式の討議、発表、講演を学ばせていただきました。

二日目の全体会では、イラストを描きながらお話をされる育児漫画家、高野優氏の記念講演「子は育ち、親も育つ。楽しまなくちゃもったいない。」をお聞きしました。

ご自身の子育てのお話で、思春期の娘さんの不機嫌に疲れてた時、心理士の方から、怒る前に子どもの話を聞き心に寄り添うようにとアドバイスをいただいたそうです。お子さんが暴言をいいたとき、「学校疲れたでしょう？学校どう？」と優しく言うとお子さんは突然ほろほろ泣きだしたそうです。学校が子どもにとって思い通りにならない事やいじめや色々な困難があり、悩み苦しんでいた事を次々と話してくれて、そ



の日から元の娘さんに戻っていかれたそうです。また、親は子どもにいつもあなたの味方です。思っている心の中で思っていないだけでなく、声に出して子どもに伝える事が大切だと言われました。



子どもはいつも愛されているか不安で、自分の味方を探して、自分の居場所を探しているのだと感じました。まずは家庭において私たちが親から温かい励まし、安心感、思いやりの心を伝えて参りましょう。手を離さず目を離さず心を離さず子どもに寄り添って参りましょう。

そして最後のフイナールは作曲家の弓削田健介氏と合唱団の子どもたち、会場で大合唱を行いました。ステージ上のスクリーンには各県のPTAが合唱している様子を事前に撮りつなぎ合わせて放映されました。全国のPTAの方々とステージと会場が一体となつて繋がりが、感動を分かち合えたフイナールでした。全国からPTA会員が集い学び合い実践力を高めることにより、子どもと保護者に関わる様々な問題と解決方策を考えさせていただく事が出来ました。

第1分科会 組織運営

福井県PTA連合会 総務委員長 結川 孝利

「活発な組織運営への取り組み」 諫早市立小栗小学校 教育委員会 による実践発表がありました。この学校は、現在会員数392世帯に対して、会長、顧問、会長補佐、そして副会長が20名になったという発表で驚きました。誰でも会長をできるようにすることを目指しているとのことでした。



続いて諫早市こどもの城の池田館長がコーディネーターとなり、全体討議がありました。「参加者が主役というコンセプトで、プロレスを観戦するよいうな並びで座って、中央ステージで発表者が話すという形式でした。どの学校も抱えている問題は共通部分が多く、その分、取組み内容が参考になりました。印象に残ったのは「PTA役員が変われば、戦力も変わるのに、例年と同じ活動をする」というのはどうなんだろう」という言葉でした。その時の役員が、自分達でできることや、メンバーの得意なことを活かした活動をしてよいはずですよ。この言葉が、活発なPTA活動への一つのヒントであると感じました。

第2分科会 家庭教育

磯部小学校PTA会長 白崎 芳彦

「PTAが手を取り合う事の意義」

第2分科会では、「PとTがつながり学びあうながさきファミリープログラムの実践」の実践発表後「学び合おう 高めよう 子どもと向き合う 親力」の課題の元、グループディスカッションを行いました。各グループ(テーブル6名、約90テーブル)にコーディネーター(PTA会員も付きました)がいました。PTAプログラムは、全員がテーマに沿って意見を出し合っているらしく、進行テーブルのコーディネイト

がスムーズでした。また各県のPTAが参加しているだけあり、様々な考えがあり、思いがありました。私が参加してきたディスカッションの大きな違いは、アイスブレイキングの進行でとても素晴らしいものが多かった。わずか10分で各テーブルから笑いが出る様になり、最後には別れが惜しくなる程。その交流の手法が大変良いと感じました。 さてプログラムの内容は、マイナスイメージからプラスの題材に移行していき、テンションの高揚と共に白熱したディスカッションとなり、しかしお互いを尊重しあう熱い内容でした。最終的にまとめるのですが、そのまとも時にコーディネーターが「意見を出し合い交流し、それを実践する事。第一線で子どもと向き合うのはPであり、それをサポートするのはTである事。お互いが尊重しあひ、手を取り合う事、高みに行ける事等、締め括りました。PとTは同じ思いなのですが、立場の違いから上手く協同出来ない場合もあります。ですが尊重し合い話し合う事で、お互いの立場を理解し、同じ目的を持つ事により、安心安全なより良い学校づくりが出来ると感じました。 最後に、磯部小学校では昨年より「マナー教室」つなごうココロ、大人から子どもへ」という事業を行っています。マナーとは人と人の接し方であり、相手を思いやる心と信じ、健全な心の教育、優しい心、感謝の心の育成、また保護者、地域の方々の子どもへ対する接し方のサポートをテーマに開催しています。PとT+Areaが協同できるPTA活動を目指す上でも、今回の分科会は大変良いプラスになりました。



第62回日本PTA

平成26年8月22日(金)・23日(土)

全国研究大会長崎大会

参加レポート

第4分科会 広報活動

敦賀市PTA連合会 会長 丸岡 樹善

双方向広報から始まるPTA活動 オープニングは、リズムカルなオーボエ演奏と次代を担う若いダンサーによるダンスアトラクション。華々しく勢いを感じるスタートとなり、満席の会場の熱気はスタートと同時に高まってきました。 第4分科会のテーマは「広報活動」。我々のPTA活動をいかにして伝えていくのか。その方法・手段を考えるヒントとなった分科会でした。



基調講演ではジャパネット高田代表取締役社長の高田明氏による講演。誰かに何かを伝える為に「宣伝する」「体で指目」を傾けることが大切であり「体で指目」指先五感で情熱をもつて伝えなくてはならないと熱く語られました。

また、パネルディスカッションでは佐賀県武雄市フェイスブックシティー課課長の山田恭輔氏より、FBを利用することで、情報を二方向に発信する「キヤッチボール」から、双方方向に発信する「キヤッチボール」の関係に変えることができ、結果、市役所に対する関心・信頼感・親近感を高められたとの報告がありました。 我々の活動も二方向通行の発信だけでなく会員相互の「キヤッチボール」をしなが互いに信頼関係を築き、今まで以上にPTA活動が活性化できればと思う事が出来る機会となりました。

第6分科会 人権・平和教育

福井県PTA連合会 副会長 高山 外喜代

わたしが変わればあなたも変わる あなたが大事わたしも大事 いのちを支える育ちあひ

右のようなテーマで様々なお話を聞かせて頂きました。被爆体験談、山里小学校の子ども達による合唱。基調講演は「いじめから守る子どものいのち」と題して臨床心理士倉成央博士より、いじめを受けた方は絶対に悪くない！する方が悪い！

- ① 子どもの気持ちを受け入れる
- ② 子どもを信じる(子どもがもし嘘をついていたとしても騙されて欲しい)
- ③ 子どもの味方になる(子どもの目を見てはつきりと「味方だよ」と伝える事が大事)

その他、長崎市教育委員会とPTAが協働して親としてどう関わっていくかを学ぶ研修会「ファミリープログラムの紹介」。パネルディスカッションでは、子どもから良かった話は聞いてあげても嫌な話は受け入れようとしな

い向き合おうとしない大人や社会を問題化し「ありのままの心」を受け止める居場所を家庭に作ってあげる事の重要性を学びました。



第7分科会 国際理解

勝山市PTA連合会 会長 長岡 渉

見つけよう！私らしさを世界から育てよう！つながる力をわが家から PTAにおける「国際理解」とは何か、果たして、英語教育の重要性であろうか？そんな疑問をもつて分科会に参加しました。しかし、そこで論ぜられたのは、家族間コミュニケーションの重要性でした。 パークガウニ氏による基調講演では「長崎の地域文化による国際交流の知恵」をテーマに、「しつ

ぽく料理」「長崎古版画などを例に、長崎が国際化してきた歴史、つまり、国籍を問わず、人と人との真剣な付き合いが今日まで続いていることを学びました。 その後のパネルディスカッションでは、韓国・スリランカ・中国・日本における家庭教育について話を聞くことが出来ました。国による文化の違いはあれども、家族団欒や親子の会話が重要であることは万国共通です。その家庭教育の中で、自分と他者と違うことを理解し、相手を尊重する心を育むことが必要であり、その延長上に、自国や他国を理解する真の国際性を体得できるのだと気づかされました。

第8分科会 健康安全

福井県PTA連合会 副会長 高畑 徹

心豊かでたくましい子どもを育てよう！



第8分科会では健康安全をテーマに、大村市のシーハットおむらで開催されました。 全ての保護者の共通の思いである、わが子には「心豊かでたくましい子どもを育てよう！」新しいヒトづくり、新しい組織づくりとのタイトルで基調講演を行いました。 ミスターラグビーと称される平尾氏の講演から親子そして師弟の信頼関係の大切さそしてその関係の中には威厳(適度な緊張の必要性)が保たれた関係が大事であることを学びました。互いに思いを理解しあえる親子関係、そして師弟関係を築くことから教育がはじまる。信頼関係があるからこそ、厳しい訓練にも耐え抜く身体と心が育つのではと感じました。

「心豊かでたくましい子ども」を育てるために我々保護者も、口先ではなく行動で示す姿勢が大切であると感じました。

あまり聞き慣れませんが、「ワクチンで防げる病気」のことを「VPD」といいます。

最近、エボラ出血熱の世界的流行が懸念され、WHOより緊急事態が発表されたところですが、この他にも世界中には、多くの感染症があり、ワクチンや有効な予防法も無く、年間に何百万もの人命が奪われています。

それに引き替え、「VPD」は予防接種を受けることにより、それらの感染から身を守ることができ、さらに、社会全体としての免疫水準を高めるという大きな目的があります。

ワクチンの副反応が問題になり、平成四年に予防接種法が改正され、それまでの義務接種から奨励接種になりました。

副反応のリスクと未接種でその病気に罹った時の危険性を考えると、ワクチン未接種で重症になった時のリスクのほうが、ずっと大きいと思います。注射部位が赤く腫れあがったり、軽い発熱などは副反応ではなく、単なる有害事象であって完治するものです。

確かに、絶対安全とは言えないかもしれませんが、ワクチンさえしていれば、こんなことにならなかったのに

ドクター通信



福井県PTA連合会 安全会審査委員

(田中病院院長) 田中 廣昌

ワクチンで防げる病気「VPD」

「VPD」で死亡している人が毎日千四百人以上いるそうです。

そんな中で、ワクチンが開発されている感染症は僅かですが、開発されているにもかかわらず、ワクチン接種をせずに悔しい思いをしなければならぬというものは、本当に残念であり、もったいない話です。

ワクチンで防げる病気は、100%のワクチン接種で完全な予防体制をつくりましょう。

子供がかかりやすい主なVPD (ワクチンがある予防可能な感染症)

麻疹(はしか)	風しん
ポリオ	結核
ジフテリア	破傷風
百日ぜき	日本脳炎
おたふくかぜ	みずぼうそう
インフルエンザ	小児の肺炎球菌感染症
B型肝炎	A型肝炎
ヒブ感染症	ロタウイルス胃腸炎

PTA活動を円滑にするため

ぜひ知っておいてください。

福井県PTA連合会安全会

安全会費	一世帯 年間 100円	本会が自主運営 合計10万円まで
PTA活動中の災害	<ul style="list-style-type: none"> ○医療機関で診察を受けた場合 <ul style="list-style-type: none"> ・入院 1日につき 3,000円 ・通院 1日につき 1,500円 ○整骨院等で診察を受けた場合 <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関の3分の1の見舞金を給付する ただし、主治医の指示による場合は、この限りではない。 ○後遺障害見舞金 <ul style="list-style-type: none"> ・10万円まで ○死亡弔慰金 <ul style="list-style-type: none"> ・10万円 ○賠償責任保険 <ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動遂行に伴う賠償保険 <ul style="list-style-type: none"> * 対人賠償 1名につき 5,000万円 1事故につき 5億円 * 対物賠償 1事故につき 500万円 (注) 対人・対物とも1事故につき5,000円が免責となる。 ・保管物賠償保険 <ul style="list-style-type: none"> * 保険期間中につき 1,000万円 (注) 1事故につき5,000円が免責となる。 	

1 賠償責任保険については、保険会社よりの支払いを受けられない場合、審査により、安全会から10万円を限度として給付する。
2 安全会よりの給付は、一人1事故について総計10万円を限度として支給する。

PTA活動中災害が起きたら

PTA球技大会、親子運動会、PTAバザー、PTA学年行事、学級行事、PTA奉仕作業、PTA役員会、PTA各委員会、PTA交流会、PTA〇〇教室など。

県P安全会に加入、単位PTAごと(様式1)



国際交流・国内研修INつくば

平和な世界への第一歩

坂井市立丸岡中学校

野田夏生

この4日間、私は大きな経験とかけがえない時間を過ごしました。人見知りであり人となじめない私は、行くとき緊張や不安のあまり、涙が出てきました。私が行くこと決めたのだから仕方ない。何かの縁で導かれたのだと思い飛行機に乗りこみました。

1日目、2日目、六班のみんなと過ごしている時、ふと気づきました。私の通っている中学校の同年代の人と似ている子がいっぱいいる。特別変わった子がいるわけでもありません。中学2年生、それぞれの特技などはあるかもしれませんが、みんな同じように感じました。同年代の間でも、派手と地味、上と下と差別をつける人が多いと思いますが、ちがうと思います。



14年間生きてきて、自分のことで頭の中がいつになりに、周りが見えない時もありましたが、この研修に参加して、視野が広がったように思います。皆の生き方に共感し涙が出たり、仲間の素晴らしい姿を肌で感じたり、何よりも人と人とのつながりが信じられることに気がつくことができました。今世界中で、戦争や紛争で苦しんでいる人達がありますが、世界が一つになる事は夢ではないと思います。初対面の人となりが感銘したつくば研修が、世界中に広がることを願っています。

輝く未来のために

坂井市立丸岡中学校

松永浩明

僕は、この研修の参加案をもらった時、文字ばかりで重いイメージがあり、あまり気分が乗らず、心配でした。どんな研修だろう?どんな子が来るのだろうか?友達できるかな?と不安な気持ちもありました。でも、開講式でのエネルギーあふれる北見さんや明るいリーダー、友達と出会

い、不安な気持ちがあふつとび、わくわくしていききました。

僕がこの研修で学んだことは、会話をしてコミュニケーションをとるということ、勇気を出してチャレンジし続けるということ、相手の気持ちは、話してみないとよくわからないので、初対面の人はおさら、よくしゃべってよく聞いて、相手に気持ちを伝える。コミュニケーションはそうやってとるものなのだと感じました。僕は、割としゃべられた方なので、気がついたら、班のみんなと仲良くなっていた。

もう一つのチャレンジするということは、とても難しいことです。現状維持をしたがるけど、それは何も自分の身にはならないのです。失敗は怖いけど、怖いけど、全力を出し切った失敗には、意味があり、それが自分を作っていきます。失敗してもいいんだ、そう自分にいいかけ、全力でいろんなことにチャレンジしていける人になりたいです。

この研修で僕は、全国の友達やいろんな国の留学生さんとふれあうことができ、ふれあいの中で、自分の視野が広がって世界観が変わりました。日本にはいろいろな人がいて、でもちっぽけな島国で、世界は広いということ。そして、自分も世界の一員であるということも教えてくれました。そして、世界中のいろいろなものを自分の目で確かめたい、世界を旅する、世界を旅する、夢ができました。

こんな僕でも夢を持つことができました。その夢に向かって、今すべきことを一生懸命頑張っていきます。輝く未来のために。



広報紙づくり講習会

前広報委員長 板倉行規
平成26年5月10日(土)

福井県PTA連合会では毎年、富山県PTA連合会広報担当アドバイザーの吉田光男氏をお招きして、各単位PTAの広報担当のみなさんに向けて「広報紙づくり講習会」を開催しています。今年も県生活学習館3階映像ホールを会場に、約80名の皆さまに参加していただきました。ちなみ吉田先生が関わった広報紙は数多く日本PTAの広報紙コンクールで表彰されています。



講習会の内容は、具体的な広報紙のつくり方についてはもちろんですが、PTA広報紙に関わることでの心構えや気持ちについてのアドバイスがすごく参考になりました。

特に印象に残った内容は、

- ・ 広報委員メンバーの出席率を高める努力を(みんな一緒に)
- ・ PTA会員が「何を知らなかったか」「何を話したいか」を事前に考えて内容を考える(前年の踏襲をしない)
- ・ 誤字の多い広報紙は内容まで疑われる(読みやすく、見やすく)
- ・ 個人的に「もっと早く話を聞いていれば、もっと良い広報紙ができたかも」と少し後悔しながらも、大変勉強になった講習会でした。



こんなことやっています

(各郡市・単位PTA活動より)

懸案解消へ大きく前進 通学路危険個所の安全対策

丹南ブロック 鯖江市鳥羽小学校PTA

鯖江市鳥羽小学校PTAでは、かねてから県道(歴史の道)の幅員が狭く車の往来も激しいこと、校門に接続する時間指定(7時～8時30分)の歩行者・自転車専用道路(以下専用道路)で規制を守らないドライバーが多くいることが通学路における危険個所・事案として認識されていました。

今年度に入り、関係者の善意により移動式看板が作成され、通学を見守る取り組みが行われ始めました。

次に実行委員会で協議し対応策が実行された結果、見守り隊が組織され、6月20日にはそのベストが新調され、また地域の協力を得て、専用道路の規制時間に下校時間帯を加えること等を記した要望書を鯖江警察署に提出し、9月1日、実現の運びとなりました。

7月10日には北陸電力や市教委の協力により、通学路のなかの約400mにわたる県道の危険個所11か所の電柱に注意喚起の表示板が設置されました。

今後は児童への安全指導にもより力を注いでいくとのことです。



すべては、子どもたちの幸せのために・・・

嶺南ブロック 敦賀市PTA連合会

本年度敦賀市PTA連合会会長を務めさせて頂いております、丸岡樹善と申します。一年間宜しくお願ひ致します。

敦賀市PTA連合会は、県Pとのパイプ役だけでなく、各市内単Pとの連携を深めるべく、今年も市内全公私20校で行う、ソフトバレーボール大会を行いました。「会員同士の親睦」を最大の目的として行っているこの大会は、本年で35回目を迎えました。また、理事会とは別に、各単P会長からなる「会長会」を行っております。各校での取組やそれぞれの地域、学校で困っている事、様々な情報を共有することで、市内全体で子どもたちの教育環境づくりに取組めるのではと考えています。

その他敦賀市PTA連合会としては、数年前より話題に上がっている「小学生の自転車乗車時のヘルメット着用義務化」について本年より本格的に議論してまいりました。この度、会長会、校長会、そして理事会において承認を頂き、来年4月より「市内小学生の自転車乗車時におけるヘルメット着用義務化」を正式に進めることとなっています。数年前の痛ましい事故から、二度と起こしてはならないという強い意志のもと、学校と連携し実現に向けて動いております。

また、会長として何が出来るか?と考へ、これは初の試みですが、市内公私20校ある学校すべて訪問させて頂き、役員の皆様や会員の皆様へ私の想いなどを伝えさせて頂いております。そうすることで、各校校長先生、PTA会長さんとの親睦を深めることができるのではないかと考へております。そして私自身、それぞれの学校の雰囲気を楽しませて頂いております。

各学校ごと、規模も人数も違いますし、それぞれのカラーがあります。お互いの良いところを尊重し認め合いながら、たくさんの情報を共有することで、大人同士の繋がりがもっていきたいと思っています。

すべては、子どもたちの幸せのため・・・これは、大人たち共通の想いです。



県P掲示板

今後の行事予定をお知らせいたします。

◆平成26年12月6日(土)

◆第56回福井県PTA連合会

◆研究大会(生活学習館 多目的ホール他)

◆平成27年1月

◆知事と語る会

◆県PTAゆめ基金

◆単P活動支援・小規模校支援募集月間

◆平成27年2月

◆県PTAゆめ基金協力月間

◆(書き損じハガキの回収)

◆ネットモラルキャラバン隊 敦賀市

◆平成27年3月

◆年間のPTA活動のまとめ冊子

編集後記

今年度最初の広報紙を発行するにあたり、言葉では簡単に伝えられるが文章で伝える難しさを改めて実感いたしました。原稿依頼を快く引き受けていただきました皆様、誠にありがとうございました。さて県PTA活動も後半戦に入ります。12月に開催される県PTA研究大会では、保護者共通の悩みを解決できるように分科会、そして、共に学び共に成長できる大会を目指して、準備を進めてまいります。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

広報委員会 委員長 増田 秀勝